

おおくちすじ しらかねざか たつもんじざか
大口筋 白銀坂 龍門司坂

【所在地】白銀坂 鹿児島市宮之浦，始良市始良町大字脇元，大字平松
龍門司坂 始良市加治木町木田

【種別】国指定史跡

【指定年月日】平成18年7月28日



白銀坂



龍門司坂

江戸時代の鹿児島藩では、街道のことを「筋」と呼称し、「出水筋」や「大口筋」、「加久藤筋」、
「日向筋」などがあった。

「大口筋」は、鹿児島城下・吉野・吉田を経て白銀坂を下り、重富・帖佐・加治木・龍門司坂
・溝辺・横川・菱刈・大口・小川内関所から亀坂を越え、熊本県境の亀嶺峠を石坂に下り水俣
に通じる、全長約70km余りの街道のことである。この街道の中で、「白銀坂」と「龍門司坂」は
それぞれ石畳が敷かれて整備されており、現在も良好に保存されている。

「白銀坂」は、始良町から鹿児島市宮之浦町までの街道で、指定距離は2,867mで、約3分の
2で石畳が残っている。この峠道の山並みは、古代以来薩摩国（鹿児島市側）と大隅国（始良町
側）との国境であった。

「龍門司坂」は、加治木から溝辺につながる大口筋の一部で、全長は約1,500mのうち、現存
する石畳部分の486.8mが指定された。石畳は平均幅4m、広いところでは7mを測る。

「大口筋」は江戸時代に参勤交代のルートとしても用いられた。また、「龍門司坂」は明治10
年2月に、大勢の人々に見送られ、西南戦争で熊本方面を目指した総数6000名とも言われる薩
軍兵士がこの坂道を登って進軍して行ったとされる。